

葦山城跡の構造

葦山城跡は、中心となる本城である龍城山、天ヶ岳、龍城山周辺の低地部と、広い地域にわたって城域が広がっています。

龍城山は南北が約400m、東西が約100mの細長い尾根で、南北方向に5つの曲輪が配置されています。

天ヶ岳は南北が約1100m、東西が約700mの山で、標高128mの山頂部から星形に尾根が広がっています。山頂部と尾根の先端には、堀や土塁などの遺構が良好に残っています。低地部には、「御座敷」・「大手」・「外池」など、城に関連する小字があり、城内のようすを知る手がかりになっています。

葦山城跡の東側には、豊臣軍の付城跡があります。



空から見た葦山城跡と付城跡群

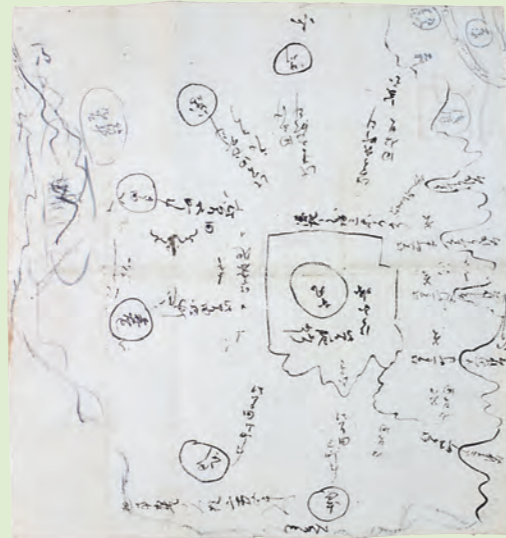
描かれた葦山城



伊豆国田方郡葦山古城図
(公益財団法人江川文庫所蔵)

江戸時代に伊豆地方の代官をつとめた江川家には、寛政5年(1793)の「葦山古城図」が伝えられています。

本城の曲輪のようすや名称、周囲を堀や土塁がめぐっていることが読みとれます。



小田原陣之時葦山城仕寄陣取図
(山口県文書館所蔵)

「葦山城仕寄陣取図」は小田原攻めの際に、葦山城を囲んだ豊臣軍の布陣を書き残した絵図です。毛利家に伝えられました。

「蜂須賀」・「福島」など、豊臣方の武将の名前があり、付城の配置も描かれていて、現在残っている付城跡の遺構と一致する場所もあります。

本城の曲輪配置と周辺の堀



- | | | |
|------------|------------|----------------|
| 凡例 | 発掘調査で検出した堀 | () 小字名・伝承 |
| 現況で確認できる堀 | 推定される堀範囲 | 散策道 |
| 現況で確認できる土塁 | 発掘調査範囲 | 曲輪名は寛政5年古城図による |

発掘調査の成果

葦山城跡の発掘調査では、本城周囲の低地部で、堀・園池・道路・屋敷地などがみついています。堀は本城を幾重にもめぐっていて、左ページの古城図と、部分的に一致していることも確認できました。本城の南側と東側では、屋敷地の遺構がみつき、周辺に城下町があったことも明らかになっています。



堀と石敷き道路(芳池第5地点)

写真下部が石敷き道路で、直交するように堀がみつかりました。堀は障子堀で、法面上部に杭を立てた跡が残っていました。



石組み水路と屋敷の区画(芳池第1地点)

石組みの水路で区切られた、屋敷の区画がみつかりました。家臣や職人の居住地と考えられます。

城内を歩くときは、階段や坂道が滑るので注意せよ。
急斜面には決して近づかないように！



そうすい